

EU各国における労働時間の動向

「第4回欧州労働条件調査」から



欧州は拡大を続けており、域内における経済発展、生活レベルの向上は目覚ましい。しかしながら他方で、労働者の労働環境に着目すると各国間の格差もまた明らかに拡大し続けている。このような格差は欧州レベルで生産性を向上させ、雇用を拡大し、労働の質を改善しようとする政策立案者にとって深刻な問題である。EU加盟国ならびに他の欧州の国々における労働条件を把握することの重要性が高まっている。

図1 EU27カ国における長時間労働（週48時間超）の各国間比較 単位：%

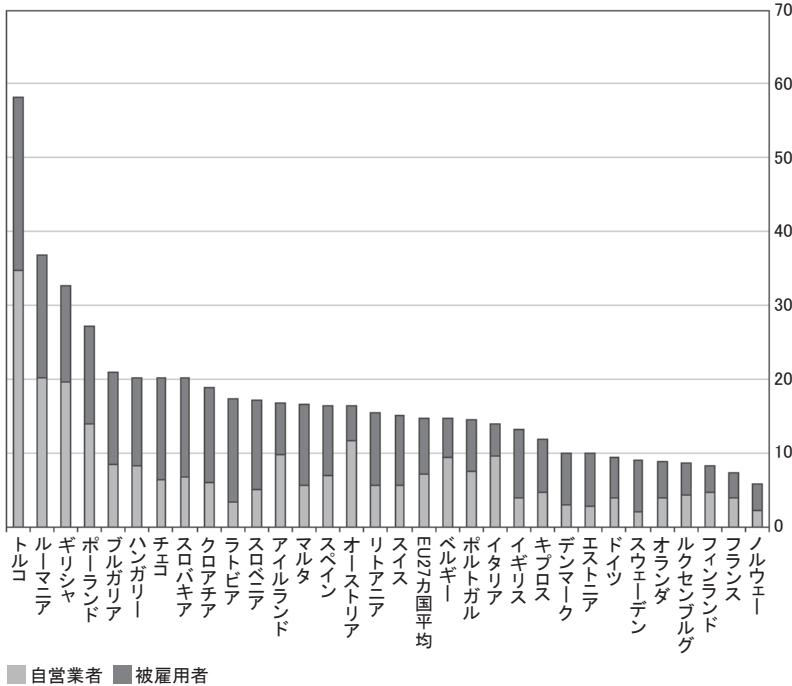
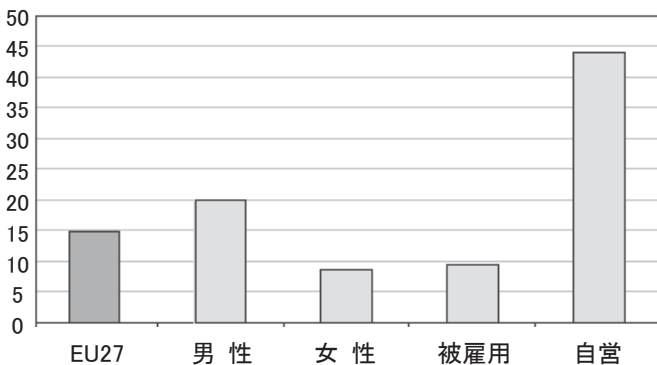


図2 長時間労働の性別・雇用形態別 単位：%



る。こうした状況を背景に、欧州生活労働条件改善財団 (The European Foundation for the Improvement of Living and Working Conditions) は、第四回欧州労働条件調査 (Fourth

European Working Conditions Survey, 2005) を実施した。欧州生活労働条件改善財団は、一九七五年に設立された欧州共同体の初の専門機関。欧州におけるよりよい生活

と労働条件のための企画・立案を行うとともに、生活、労働条件、労使関係、人事管理の変更などのEU社会政策の主要素について、比較研究・調査・分析に基づく情報、助言、専門知識の提供を行っている。本調査は欧州三一カ国における労働者を対象に包括的な労働実態を明らかにすることを目的に実施されたもの。労働時間に関してもいくつかの調査が行われており、欧州にお

図3 長時間労働のセクター別・職種別 単位：%

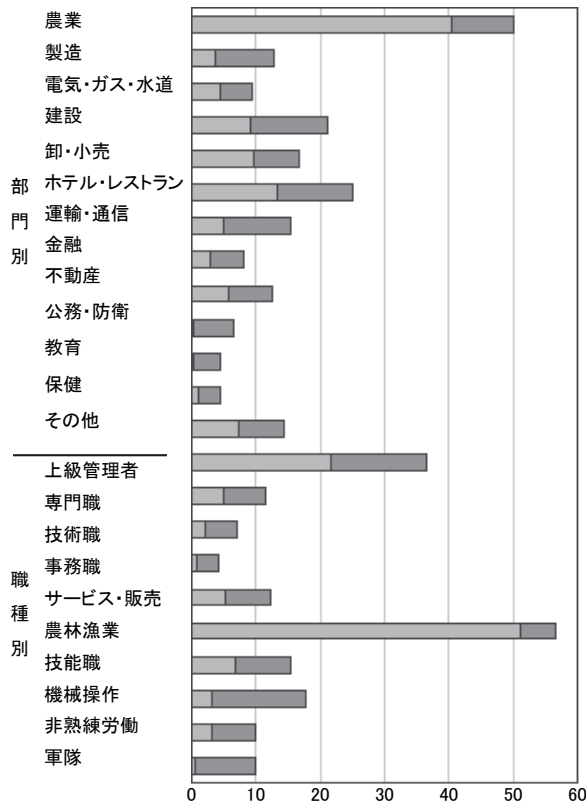


図4 EU27カ国における週労働時間と平均通勤時間の関係 単位：分

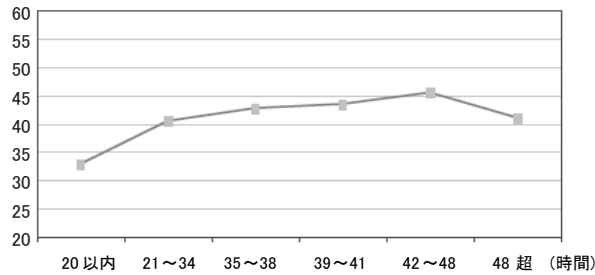
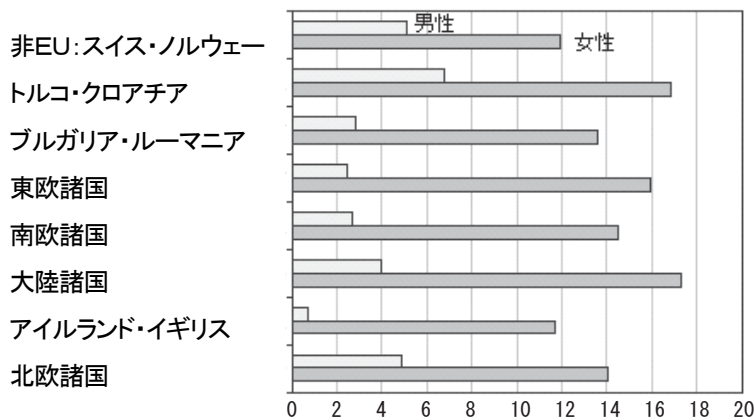


図5 国グループ・性別から見た家事に週あたり費やしている時間 単位：時間



(国グループ)
 東欧諸国：チェコ・エストニア・ラトビア・リトアニア・ハンガリー・ポーランド・スロベニア・スロバキア
 南欧諸国：ギリシャ・スペイン・イタリア・キプロス・マルタ・ポルトガル
 大陸諸国：ベルギー・ドイツ・フランス・ルクセンブルク・オーストリア
 北欧諸国：デンマーク・ノルウェー・フィンランド・スウェーデン

ける長時間労働の実態が示されている。

(1) 長時間労働

欧州の労働時間は短いというイメージがあるが、各国別に見るとかなりばらつきがある。図1は、週当たり四八時間を超えて働いている労働者の比率を示している。自営業者と雇用労働者を合わせて最も長時間労働者の比率が高いのはトルコ。最も低いノルウェーと比べると五〇%以上の開きがある。長時間労働は、おおむね平均労働時間と同様の傾向を示している。

図2は長時間労働を性差および雇用形態別で見たもの。長時間労働は欧州においてもやはり男性の傾向であることと示している。また雇用労働者よりも、自営業者の方が長時間労働の率が高い。

図3は、セクター別および職種別の

比率を表している。長時間労働の率が高いのは農業、ホテル・レストランおよび建設業。およそ二〇%以上の労働者が長時間労働をしていることを示す。職種別に見れば、管理者と農業労働者が、しばしば週四八時間を超える労働をしている。

(2) 通勤時間

本調査は労働時間と通勤時間の長さの相関にも着目している。図4は週労働時間と平均通勤時間の関係を示したものである。週労働時間が長いほど通勤時間も長いという傾向があるが、四八時間を超える長時間労働についてのみこの傾向から外れている。それは長時間労働における農業労働者の占める比率が大きいからである。全対象国の労働者の通勤時間の平均は四〇分であった。

(3) 無給労働時間

本調査はさらに、家事などの有給労働時間以外に費やす労働時間を比較している。図5は欧州すべての国において、無給労働に費やす時間数は男女間に大きな差があることを示している。また、国グループに注目すると、ジェンダー間の負担にも大きな差が存在する。アイルランドおよびイギリスは、他の国グループと比較して男性が家事に費やす時間が短いことがわかる。

(国際研究部)

